

西アフリカボランティアで 思ったこと

釧路市医師会
釧路孝仁会記念病院

川 嶋 康 裕

私は学生時代から途上国医療協力に思い入れがあり、2002年から2012年まではほぼ毎年一ヶ月の休暇を頂き、主に西アフリカでの麻酔ボランティアに参加してきました。諸事情により中断を余儀なくされていましたが、昨年末、4年ぶりに6回目のシエラレオネ共和国(以下、SL)に行くことができました。アフリカ西部、北緯7～10度にあるSLは、2002年までダイヤモンドが原因の内戦が続き、世界で最も寿命の短い国と呼ばれていた時期もあります。私は2004年に病院船での仕事を始めましたが、その時の寄港地がSLだったのです。事前調査で、現地に日本人のカトリックシスターがいること、カトリックの病院と診療所があること、日本に彼女らを支援する団体があることを知り、現在まで関わりを持っております。拠点施設はルンサという町にあり、診療所はマイル91という町にあります。マイル91にはかつて国境なき医師団の良い病院があったのですが、現在は政府が引き継いでおり、質はかなり落ちたとのこと。

この4年でルンサはかなり発展しました。主だった通りが舗装され、夜間ですが電気が通り、マーケットも拡張されました。マイル91クリニック(以下、Mクリ)も、そこに限って言えばソーラーパネル、蓄電装置が設置され、24時間電気が使えるという発展ぶりでした。

今までは病院船で手術麻酔の仕事をした後に訪問するだけでしたが、今回は病院船には行かずMクリだけで仕事をしました。これは私にとっても勇気のいる挑戦でした。なぜなら、ここ数年は麻酔しかやっていなかったからです。また十分な検査ができないため、疫学的知識、現地の人の表情を読み取れる勘、経験がモノを言う世界なのです。

スペインからの支援が継続的に入っているおかげで、2012年に比べると検査項目も医薬品の種類も現地人スタッフの実力もかなり充実してきたように思います。ちなみにMクリでできる検査ですが、試験紙または簡易キットを使ったマラリア、腸チフス、血糖値、Hb値、ウイルス性肝炎の型、HIVの有無、尿検査、血液型とクロスマッチ、そして超音波検査。近代的な血液検査機器や顕微鏡は寄付されて置いてありますが、まだカバーを被ったままです。

初日から驚きの連続でした。まず着いたその夜、激しい暴風雷雨に襲われました。雷が施設を直撃しました。ただひたすら蚊帳の中で、火事洪水になりませんようにと祈りました。翌朝、ソーラーパネルと水汲み上げポンプがやられたことが判明。「一晩中扇風機」の望みは絶たれた上、井戸まで水を汲みに行くという想定外の生活となりました。

医療面でも驚きの連続でした。1)1年前にバイク事故で左胸を強打したという青年。超音波で見ると左胸のほとんどは胸水でした。それでもSpO₂は99%で普通に生活しているのです。下手に穿刺排液しない方が良かったかもしれません。2)肺気腫と思われたおじいさん。咳き込んだと思ったら、長さ20センチほどの回虫を口から吐き出しました。回虫が肺の構造を破壊していたのかもしれませんが。3)重症の喘息発作の女性。酸素が必要でしたが、なんとボンベは空でした。アドレナリン皮下注とサルブタモール吸入で少し改善しましたが、本当は入院した方がいい状態です。明日も来るように言うと、遠くに住んでいて、もう交通費がないと。4)急性喉頭炎で高度の上気道狭窄の乳児。チアノーゼ著明、頻回の陥没呼吸、発汗多量でかなり危険な状態ですが、酸素はおろか気道確保の道具も何もありません。アンビューバッグは粘土のように変質。ネブライザーもありません。アドレナリン筋注が少し効きました。そのすきに、バイクで1時間の距離にある小児病院に行ってもらいました。でも、紹介状を書いても実際には安価な呪術師の所に行ってしまう、それで命を落とす人が少なくないのです。5)子宮外妊娠(腹腔内)で赤ちゃんが満期まで生きられる。あるいは赤ちゃんが亡くなった後、おばあちゃんになってもお腹に持ち続けることができるのです。6)患者さんの大多数は発熱の子どもでした。そのほとんどが熱帯熱マラリアにかかっています。いい薬が出てきましたが、それでもマラリア原虫も蚊も周りに無尽蔵におり、2週間ごとにかかる人もいます。7)脳卒中と考えられる人が連れてこられました。何もできません。来た時と同じように3人乗りバイクの真ん中に挟まれて帰って行きました。8)前日に母親が突然死したという乳児が連れてこられました。聞くと、母親をどこにも運ばなかったと。推測ですが、運ぶ手段がないので運ばない、「急な意識消失=死」と考えているようで、そこになけなしのお金をかけようという発想は無いみたいです。

ほかにもたくさん衝撃的なことはありましたが、この診療所の機能が充実していけば、結構な数の悲劇を防げると思われれます。私の滞在中に産科病棟の完成内覧会がありました。地元の人々の期待の大きさを感じることができました。しかし、半年経った現在、設備も人材も何も揃っていないどころか、ソーラーパネルの1/3が夜中に盗まれてしまうという有様なのです。とりえず酸素に関しては、シスターに、スペインの支援団体に酸素濃縮機をリクエストするよう助言しました。高額な医療用1台よりも安価な家庭用が2～3台ある方がいいのですが、スペインにあるのでしょうか？

私は、もう身体がすっかり北海道人になってしまい、暑さには本当に弱く、今回も汗をかかなかったのは朝方の2時間だけという苦行状態でしたが、また来年も行きたいと思っています。なぜかMクリで仕事したいなあ、発展を見届けたいなあと思われています。多分、感覚が趣味の登山に似ているからかもしれません。もしも「行ってみたい」という方は、ぜひご一報下さい。喜んで紹介状を書かせていただきます。